

全組合員の皆さん！

会社の「ウソ、ゴマカシ、ドウカツ」に騙されず

J R 東労組の旗のもとで団結を強化しよう！

2月23日にJ R 東労組八王子地本が発出した「全組合員に訴えます！会社による異常な組合脱退強要＝不当労働行為を絶対に許さない！J R 東労組の旗のもとで団結し、格差ベアに終止符を打ち18春闘を勝利しよう！」では、今18春闘における経営側との対立点を明確にし、改めて「ベアを実施する場合には、所定昇給額をその算出基礎にしないこと」を求め交渉に臨んでいること。経営陣が主張している「未来永劫の一律ベア」やストを目的化しているわけではないことを明らかにしてきました。

そして、2月23日14：00から開催された闘申第1号「『所定昇給額』を算出基礎にしないベースアップの実施等を求める緊急申し入れ」の交渉において①「ベアの実施にあたって、これまでベアの算出基礎にしてきた所定昇給額にこだわらない」②「生産性向上分の算出にあたって所定昇給額にこだわらない」③「ベアの要素は物価上昇分を考慮した生活維持向上分である」ことを確認しました。よって私たちが求めていた「所定昇給額をベアの算出基礎とすることにこだわらない」ことが実現したことから、2月24日、闘争準備の解除を行いました。

しかし会社は、2月25日、勤労速報で「闘申第1号の議論経過に関する会社の認識について」において「組合は議論の一部を切り取っているにすぎず、意見の一致は見られていない」と事実をねじ曲げ混乱を持ち込もうとしています。さらには「労使共同宣言を貴側が一方的に破棄したと認識しており、極めて遺憾と言わざるを得ない」とあたかも組合が一方的に話し合いを拒否し、ストを目的化しているかのような回答は恣意的であると言わざるを得ません。本日の交渉終了後、発出された「東日本旅客鉄道労働組合との『労使共同宣言』の失効について」の勤労速報は、何を目的にしているのでしょうか。まさに組合に混乱と動揺を持ち込むことが会社の狙いです。そして、この間行われている脱退強要は、組合が無理難題を強い、あえて組合が争議行為に持ち込むことを醸し出し、その事のみを切り取って行われており、今交渉における意図的な捻じ曲げも真実を覆い隠した「やり得」でしかないと考えざるを得ません。

実際、本日行われた第2回交渉でも「所定昇給額にこだわらない」「ベアは物価上昇分を考慮した生活向上分で、誰にでも等しくある」ことを労使で確認しているのです。

組合員の皆さん

真実の一つです。今日以降も、あからさまな脱退強要＝不当労働行為が行われています。しかも、ある現場では現場長から「まだはっきりしないのか。だからお前らはダメな管理者なんだ。」と恫喝までされています。

また、運車職場では、区長面談や呼び出しが行われ社長の「社員の皆さんへ」が読み上げられるなどの行為が行われています。まさにこれは、かつて西や東海で行われた新組合立ち上げの時と同様な手口です。

特に青年部員の皆さん。目の前の現実だけに騙されず、これから少子高齢化社会を迎える中で、厳しい現実を生きていくために「何が正しいのか」「何が間違っているのか」を一人で悩まず、皆で相談しあい、真実を見極めることです。

「ウソ・ゴマカシ・ドウカツ・キョウヨウ」に屈せず、安心して安全な職場を守り抜くために、今こそ全組合員の総団結を訴えます。

2018年2月26日
J R 東労組八王子地本